

ガイド共通講座開催!

2月25日、26日に秋田県ガイド共通講座が鳥海山・飛鳥ジオパークで開催されました。ガイド共通講座は秋田県内の4つのジオパークによって毎年開催され、ガイド同士の交流とガイド技術の向上を目的としています。開催場所は持ち回りで、昨年度は八峰白神ジオパークで開催しました。

鳥海山・飛鳥ジオパークは昨年9月に日本ジオパークに認定され「日本海と大地をめぐる水と命の循環」をテーマにしています。今回は「水」「文化」をテーマにした講演とツアーでした。県内の各地域の水や文化の情報共有できれば、自分たちの住む地域を特徴づけた、よりおもしろいガイドにつながるのではないかと思います。

講演1「秋田県の湧水について」林武司氏

秋田大学教授の林先生からは水と文化の話をしていただきました。秋田県内には湧水箇所が

各地にあり、八峰町では「お殿水」が有名です。各地の湧水をめぐって飲み比べをしてみるのも楽しいですよ。講演内容は次のとおりです。

- ・成分や湧水量など水そのものの性質だけでなく「水文化」という視点でとらえれば、各地域で差異が出て面白い。
- ・例えば酒蔵や鹿島祭りも水を利用した水文化だ。人と水がかかわってきた歴史・文化はジオパークで大きなテーマとなる。
- ・雪は天然のダム。温暖化により雪が降らなくなれば、春先に必要な水が不足する事態も懸念される。

講演2「東北の野生動物と狩猟文化」田口洋美氏

東北芸術工科大学の田口先生からはマタギやクマの話をしていただきました。田口先生は主に狩猟文化について研究されており、マタギの集落を訪問したり、「マタギサミット」を開催したりしているそうです。講演内容は次のとおりです。

- ・秋田県だけではなく全国的にクマの被害が増えている、出没場所が山↓平地農村↓地方都市と人の生活空間に徐々に近づいている。
- ・農作物被害が大きいのはイノシシや鳥類。クマの被害数は圧倒的に少ないが人身事故になる可能性がある。
- ・昔はマタギや犬たちが人間と動物とのテリトリーを調節していた。現在は狩猟者が激減し、人が自然から撤退したことでバランスが変化した状態だ。



講演する田口先生

ツアー「スノーシューで行く冬の『法体の滝』」

法体の滝は、秋田県南部を流れる子吉川にある高さ約57メートルの滝で、日本の滝100選

にも選定されています。約10万年前に鳥海山から流れ出た「法体溶岩」が川をせき止めてできました。

ツアーでは、スノーシューで溪流沿いを歩いて法体の滝を目指しました。散策前の準備体操の必要性や大地の成り立ちの説明の手法などガイド技術を学びました。



雪原をスノーシューで連なって歩く様子

今回の共通講座では他地域のガイドを実際に体験でき、大変勉強になりました。また、色々な地域の方がジオパークを通じてつながり、交流の輪が広がっています。

八峰白神ジオパーク推進協議会

地域おこし協力隊 三輪 拓磨

〒018-2632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

ぶなっこランド内

TEL 0185-77-3086